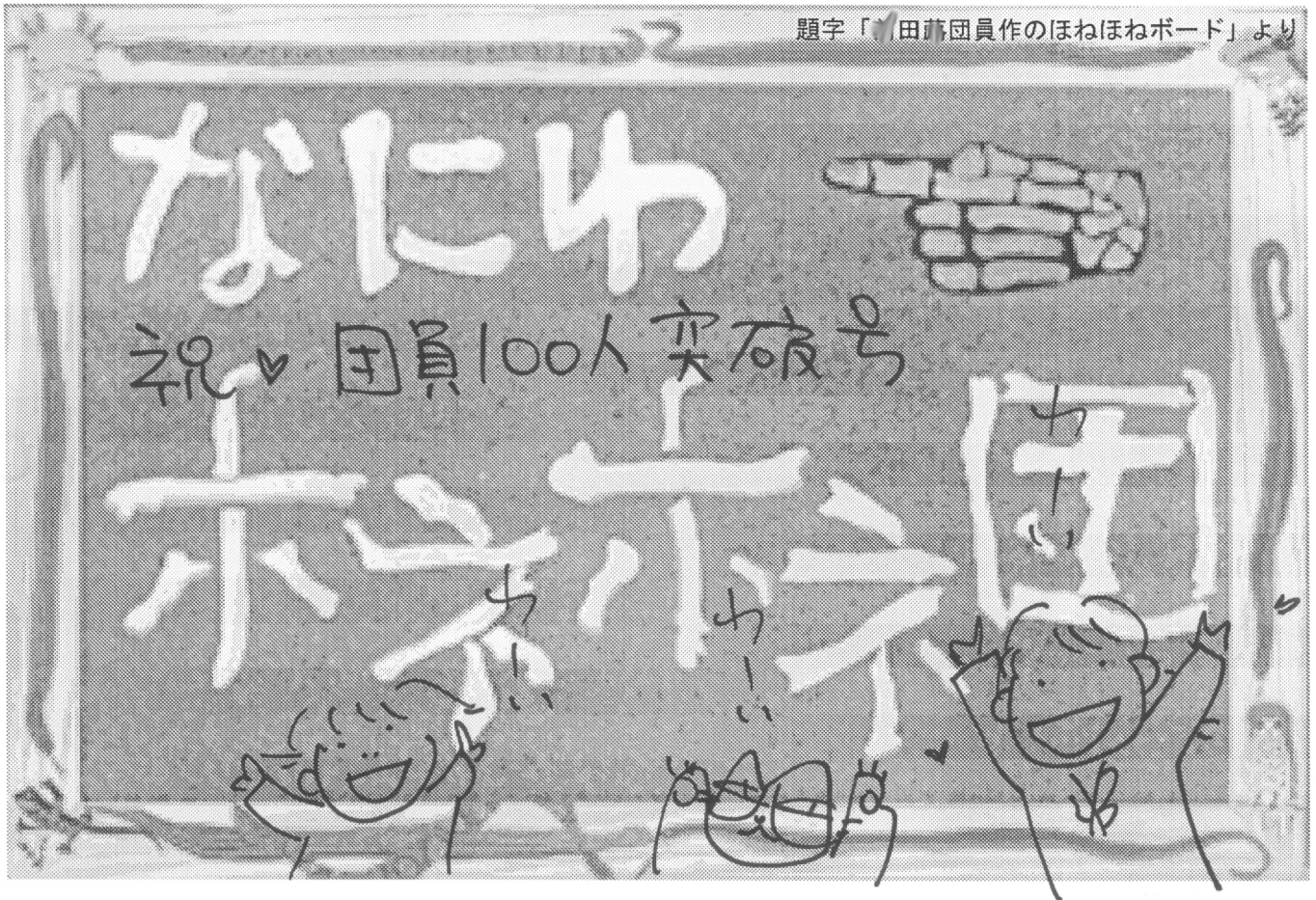


題字「田藤団員作のほねほねボード」より



**ホネホネサミット
開催決定!!!**

2009

団長が某番組で勝手に宣言した、世界初(多分)のホネホネサミットがついに実現!全国の隠れホネファンを一堂に集め、ホネの魅力を語り合い、技術交換をし・・・タヌキの早剥き大会をするというウワサも・・・詳細はまだ決まっていないので、「こんなことをしたい!」「この人の話を聞きたい」など、皆様の楽しい企画、ご意見をお待ちしています。

2009年8月22〜23日
大阪市立自然史博物館にて

招待講演は決定。

相川稔氏

(元ウイースバーデン博物館自然史部)

ヤン・パニガー氏

(シユトゥットガルト自然史博物館)

二人とも標本作成技師です。

鳥がまたあつらいい
実現もしてあげよう!!

組み立て団結成

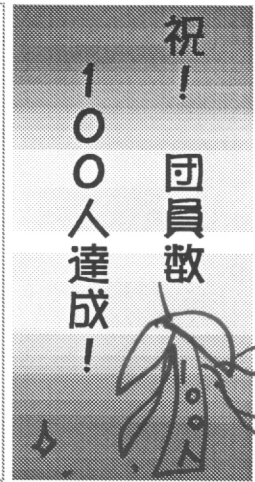
ホネホネサミットにむけ、展示や説明に使えるような組み立てた標本を作ろうと、組み立て団を結成。組立作業は今まで「やってみよう」という要望が多かったため、ちようどいい機会です。花王からもらった助成金で土台や工具などが購入できることも追い風に。

一番大きなものは樽野顧問が中心のハセイルカを組み立て中。そのほかアオダイショウ、コウベモグラ、ドブネズミが完成。アライグマが近日完成予定です。

花王・コミュニティ
ミュージアムのつごう
今度も
助成決定!!
ヤ

ニいびががでるを

!!ドイツからワキいじゃうを!!



祝！ 団員数
1000人達成！

2008年6月13日、とうとう
団員数が1000人を越えました！
栄光あるナンバー1000は、田
穂さん。

おめでとう

ナンバー1000だからといって、
なにも記念品はありませんが...

8月30日現在、団員数は107
人。

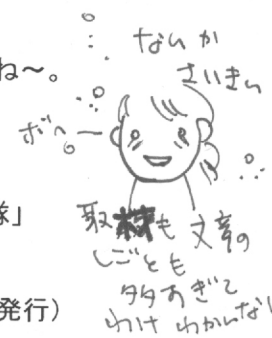
任意団体に会員1000人といえば、
結構な大所帯。いったいどこまで
いくのかホネホネ団。



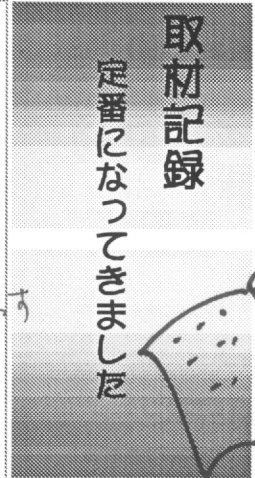
いつの間にか、団長がいろいろと取材を受けていたらしい。

入手できなかった方は、直接団長に見せてもらってくださいね~。

- ・ 毎日新聞 8月26日 人欄
- ・ 沖縄タイムス 子供新聞ワラビー
- ・ 赤旗 8月の毎週金曜日連載 「ようこそホネホネ探検隊」
- ・ Naber (YKK 発行) 7~11月号の4回連載 (現在連載中)
- ・ 自然と教育 第17号 (奈良教育大学、2007年3月30日発行)
「大人も子供もいっしょに解剖ー標本作成サークル『なにわホネホネ団』の
活動からー」
- ・ L-マガジン 9月号 「ヒットザスポット」



ホネホネサミットの
開催直前でした。



取材記録
定番になつてきました

団長から広告！

● 「ホネホネたんけんたい (アリス館)」が小学館児童出版文化賞でベスト15にノミネート！
すばらしい~。

- ・ 松田素子 文
- ・ 大西成明 かし
- ・ たいちろう 監修

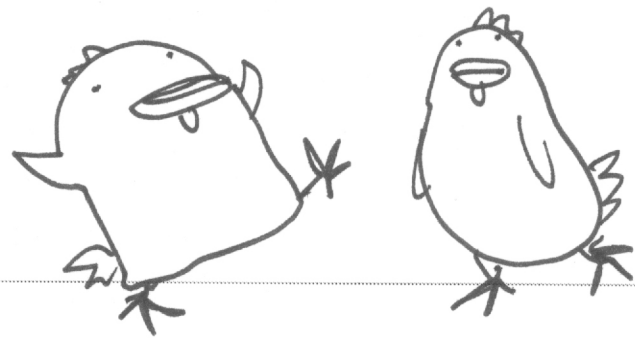


◎ 2008年^{第41回}夏休みの本 (後援図書)
全国学校図書館協議会に選定！

◎ とい.. 2008年9月、
何と、5刷目！

● 「フライドチキンの恐竜学 (サイエンス・アイ新書/ソフトバンククリエイティブ)」
絶賛発売中。著者は団長の恩師、盛口満 (ゲツショ先生)。全ての見開きページに団長のイラスト
が付いています。徹夜3日に描きました。死にぞーていた。

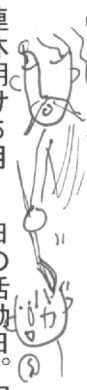
本文もおもしろいですが、図だけ見てもOKです。



案内後は
ニクトリのキアラ
= 骨つっこ



ザンゲのホネ部屋



連休明け5月 日の活動日。団長さんからバーバリーシープが来るよとのことでものすつごく楽しみにしていました。

で、お伺いした当日。机の上にごどーんとでっかいのが。小学生の男の子と団員のMさん達といっしょに副蹄？を皮側に付けるのか、骨側に付けるのかとかわーわーといいつつ皮を剥き剥き。午前中のみどりややっていたらほとんど進まず、足が2本終わっただけ。屋からはたくさんの方々が来られ、剥いたところから順番に骨にしてくださいました。

で、最後に残った頭のところで角をどう外すかで再度悩むことに・・・団長さんに教えていただいて、できるだけ切れ込みが少ないであろうところで切れ込みをいれ角を外してつと。何とか角は外せてほつとしましたが、目の付近の皮を剥いているときに、んっ??これはもしかしてまぶたを切ってしまったのでは?!

やつ、やばいっ!!なことに・・・それに時計をみると時間のほうもやばい。終わらん・・・中途半端なところでほつちらかして帰るのも嫌だしなあとピッチを上げて残りの皮を剥いていると、げげっ@@さらに顔に傷をつけてしまった。せつかくの大物やのに。でもこれって自覚しているところだけだから、他にももっと皮を破ったところあるかも。ってあるに違いない・・・すいません。今後は時間配分にも気をつけつつ、皮むきできたらなあと思えます。でもそんな余裕あるのかなあ・・・



ほね本紹介 「骨から見る生物の進化」

ジャン=バティスト・ド・パトフィユール (著)

5800円

えらくな名刺...

河出書房新社

ISBN 978-4-309-25217-9

第一印象は「でかい!」。本の装丁が定形外ででかい(30cm x 30cm)。そして真っ黒な表紙には、真っ白な渦巻き状のヘビの骨。かっこいい。

肝心の本文は進化論の基本な話。文章と隣り合わせてホネの写真が多数ある。文章は教科書的な進化論を語っており、それとなく関係する種のホネの写真があるもの。「このホネのこの部分がああだ、こうだ」というような解説はない

ので、写真のホネのどこがどうなのかは文章からは読めない。なので、文章と写真は別のものとして、単なる写真集として眺めるもよし、進化論の教科書として文章を楽しむのもよし。

写真は全て黒バックに浮き彫りになる白骨なので、とにかくかっこいい。なんとなくユーモアもある。ウマのホネに乗ったヒトのホネ、でっかいカバと同じページのちっこいアカネズミとアルダブラタイヨウチヨウ、アダックスに飛び掛るヒヨウ、ハタネズミを狩るキツネ、アナウサギに掴みかかるイヌワシ・・・パンダの手のひらには、確かに6本目の指が写っている。とにかく真っ黒のバックに真っ白の骨の写真がものすごくかっこいい。ここまで3回もかっこいいと書いたが、この本はこの一言に尽きる。ホネって本当にかっこいい。



団員がナンバしてきた獣医の
仲間が見学に来てくれました

2008年5月11日

・下

参加させていただいて本当にありがとうございました。2回目という事でまた和田師匠に教えを請うに行ったのですが鳥ができずにちよつと残念でした。今回はホツキョクグマの骨洗いをさせていただきました。前回は今回も体調不良で迷惑かけてしまつてすみません。さん本当に毎回対応、ありがとうございます。感謝しても仕切れません。団長さん、今度美味しいお酒を持ってまた参加させていただきます。ありがとうございます。またよろしくお願いします。

・永

今大学で解剖の授業があります。しかしあまり実際にさわつたり実物を見る機会はないので、ホネホネ団の骨格標本作りはとても勉強になりました。骨格標本作りがとても手間のかかる作業であることを初めて知り、とても貴重な体験

をすることができました。

・村

僕の所属する学科では、直接動物を扱つたりしないので、今回の肉取りは貴重な体験でした。次参加するときはタヌキにも挑戦したいです。

・

初めは興味本位で行つたのですが、普通なら触れる機会もない北極熊・アザラシの頭蓋骨や鯨の骨を間近で見比べて比較することが出来てとても勉強になりました。タヌキの解剖も実験です。ラットの何倍もある動物を解剖することが出来てとても良かったです。でも正直ホネホネ団やジュニアの子達の好奇心・行動力・知識の量に一番驚いたと言うよりビビりました。自分が中学生の頃一体何やってたんだらうというのと、今時分何やってるんだらうとつくづく思いました。次回参加させていたかどうかにはそれまでに恥ずかしくないよううしっかり勉強してきたいと思いません。

・4回

一日ひたすら剥皮と筋肉そぎをやるといふ、貴重な体験をさせてもらい、大変勉強になった。忘れかけていた解剖学の復習になり、珍しい病変も見られ、もっと勉強しないとと思わされた。死んだ動物がどうなるかなんて考えたことはなかったが、こうやって標本にされる現場を知ることが、視野をまた広げることができた。これからもまた、機会があれば参加させて頂きたい。ありがとうございます。

・伊

メスを使うのは初めてだったので、1日使ううちにだんだん、どう扱えばいいのかわかつていい経験になりました。ジャガーを見れたのもよかったです。また行きたいです。

・田

今回が2回目の参加でした。前回はひたすらにタヌキの皮むきを経験させて頂きましたので、今回は写真係という見学者として参加しました。前回は、解剖学では骨学

を勉強している最中でしたので、実物の骨を見ながら最近得たばかりの知識を試してみたり、いくつかの動物をじっくり来たりしながら比較してみたりできました。解剖学の講義では、どうしても本を中心に進めていくことになるのでホンモノを手にとって勉強することができません。ホネホネ団の活動に参加して、本の中の黒白の解剖が、色鮮やかになりました。

・

私は以前からホネホネ団に興味があり、参加したかったので、今回参加できたことをとても嬉しく思い、当日は何をやるのか楽しみだった。当日博物館に到着すると、乾さんが快く出迎えてくださり、また博物館にくるのは久しぶりで、壁にはつてあるポスターや、展示物などは、子供のときよりもむしろ今のほうが興味のあるものが多い、また改めて博物館にゆっくりきたいなと思つた。

体験では、まずホツキョクグマの骨洗いをした。私はホツキョクグマを洗っていたが、友人たちはカンガルーやアシカなどを洗つて

いたり、マレーグマを洗っていたので、いろんな骨を比較しながら、作業を行った。骨で観察してみると、普段は全然気づかなかった動物たちの体の構造や、同じクマでも骨にずいぶん差があること、また年齢差によって骨に差があることなどを学んだ。また骨洗いの作業をしているときから、たくさんの子供たちが作業に参加しており、小さいころから自分の興味を持つことに対して学べる場所があるということの大きさを感じた。ジャガーの肉取りでは、意外と肉を取るのが難しく、自分の腕がもう一本あればうまくいくのにと思った。同じサークルの何人かがかりでやってもけっこう時間がかかったので、今まで普通に見ていた剥製や骨標本を作るまでの手間と労力がかかるということがわかった。

午後になり、午前中に解凍していた交通事故にあったタヌキの骨標本づくりをおこなった。大学の実習で行っている剥皮とは違い、きれいに皮を剥ぐことの難しさがわかった。私の担当したタヌキは、体の損傷がひどかったため、骨などが砕けており難しかったが、ホネホネ団の方々の親切な指導により、なんとか剥皮と解剖を行うことができた。他の子が担当していたタヌキからはフィラリアが発見され、教科書でしか見たことのないフィラリアを実際にみることでよかったです。でもフィラリアはやっぱりちよっと気持ち悪かったが、1日かけてもまだまだ完成までには先が遠く、また改めて骨標本作製の大変さを感じた。

はり教科書で学ぶだけでなく、実際に自分たちでやってみて、目で見て触って、専門家の人たちの話を聞くほうが、授業よりも数倍頭に入ると思うからである。ホネホネ団は月に1、2回の活動であると感じたが、また機会が合えば参加してみたいと思うし、また私たちのサークルでも、やってみたいという声が出ていたので、今後サークルで話し合い、少しでも実際に目でみて触って学ぶことができる機会を増やしていけば、学生たちの興味をもっと引き出すことができ、将来の獣医療も向上していくのではないかと思った。



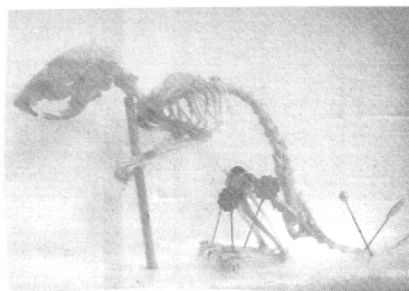
3月2日に須磨海浜水族園で、水族園のボランティアさんが提供する「須磨ボラフェス」に行ってきました。大阪市立自然史博物館友の会と共同ブースで、ホネホネ団はシカの皮や足、団員作成の豚足、各種頭骨などを展示し、グッズ販売をしました。今回は解剖実演がなかったので、インパクトにはかけてしまいました。グッツの売り上げは3千9百円でした。

遠征行ってきました 須磨ボラフェス



2008年2月以降の成果品

- 8月22日：皮剥き（ツバメ1、ゴーラル1）、肉取り（オオカミ1、ピューマ1、ネコ1、ハクビシン2、タヌキ4、ツバメ1）、骨洗い（シカ2）
- 8月21日：皮剥き（ピューマ1、ネコ1、ハクビシン2、タヌキ4）、骨取り（ツバメ1）
- 8月13日：組み立て（ラット3、アライグマ1）
- 8月1日：骨取り（シロエリオオハム、ゴイサギ、コサギ、ツクシガモ、オシドリ、マガモ、カルガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、キジバト、フクロウ、アオバズク、カワセミ、アカシヨウビン、アオゲラ、コゲラ、コルリ、イソヒヨドリ、ウグイス、エゾビタキ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラスなど37体）
- 7月13日：皮剥き（バーバリーシープ1、タヌキ1、イノシシ2）、皮なめし（タヌキ5、キツネ21）
- 6月29日：皮剥き（ブチハイエナ1、タヌキ4、キツネ3）、仮剥製（アオサギ1、コジュケイ1、ホシハジロ1、ヒドリガモ1、キジバト1、トラツグミ1）
- 6月28日：骨洗いなど
- 6月15日：骨の組み立て（組み立て団）
- 5月11日：皮剥き（バーバリーシープ1、タヌキ5、猫1）、肉取り（ジャガー1）、骨洗い（シロクマ2、マレーグマ頭骨1、カリフォルニアアシカ頭骨1、ハイロカンガルー頭骨1、ブラックバック頭骨1）
- 5月8日：皮剥き（ジャガー1）
- 4月23日：ザトウクジラの頭骨回収（記事あり）
- 4月19日：骨洗い（シカ（部分）5、タヌキ3、テン2、ウサギ1、イタチ1、アライグマ1、ハクビシン1）
- 4月9日：ザトウクジラの皮剥きと骨回収（記事あり）
- 3月23日：皮剥き（ニホンリス1、エゾグロテン1、オコジョ1、チョウゲンボウ1、ゴイサギ1、ドバト1、カワセミ1、シロハラ1、ツグミ1、ヒヨドリ2）、骨洗い（タヌキ、アライグマ）、組み立て（アオダイショウ、コウベモグラなど）
- 3月14日：骨洗い（スナメリ頭骨）、皮なめし（キツネ）
- 2月3日：骨洗い（タヌキ2、アライグマ1、バーバリーシープ1、ダマシカ1（一部）、ニホンジカ1、アカウミガメ2（一部）、ニワトリ1）、皮剥き（カマイルカ2体分のフィン、タヌキ1）



徳島にクジラ拾い

●2008年4月9日

徳島の無人島にクジラが打ち上がっているという情報が入ったのが、3月22日。そんなん拾いに行ってる暇なんかあるかいな。と思っただのだが、あれよあれよという間に、拾いに行くことになっていった。いつの間にか車が手配され、気付いたら刃物も準備されている。なにわホネホネ団の大阪湾ウミガメ・クジラ回収班恐るべし。

そんなわけで、今日は朝早くから徳島にお出かけ。クジラオタク達に連れて行かれるような感じなので、今ひとつ予定を理解していないのだが、とにかく何となく付いていけばいいに違いない。そしてスペシャリスト達の活躍をながめるとしよう。

問題のクジラは、画像を見るに、岸壁の下の波打ち際というか、潮

間帯にいるらしい。満潮時には水に浮いているという話もある。今日までに海が荒れたらいなくなってるかと思っただが、幸か不幸かまだクジラはいるらしい。打ち上がった既に約3週間。もう腐ってて、すごいことになっているんだろな。でもって、遠目に5mと言われているけど、本当の大きさはよくわからない。4mなら処理はかなり楽、でも7mならかなりハードな処理が待っている。この辺りの微妙な大きさの違いによって、胴回りがかなり変わるので、処理時間に大きく影響する。小ぶりであることを祈ろう。さらに祈るなら、ミンククジラ以外でありますように。遠目の粗い画像だけなので、ヒゲクジラとしかわからない。ミンクはすでに2回経験がある。今度は違うのが欲しい。



ホネホネ



妄想団

朝早く、我々は大阪を出発した。明石から淡路、淡路から鳴門と經由して、徳島に上陸。途中、ナカちゃんが生息する未知の駅で、パラダイスうどんを満喫したせいで時間を取られた。おかげで、昼をかなり過ぎてようやく現地に到着。通報者との挨拶もそこそこに、現地に船で案内してもらおう。棧橋につけた船から処理道具を手に現場に向かう。小さい岬を回ったら、数十羽のトビとハンブトガラスが飛び立った。下に白くて長くて大きなものが横たわっていた。クジラであった。遠目ではやや小ぶりに見えた。これなら比較的簡単に作業は済みそう。という楽観論は、全長を測ってみて見事に打ち砕かれた。頭部のホネがバラバラになっていて小ぶりに見えたが、全長は約7mはある。予定よりもはるかにでかい。すでに白骨となって周囲にばらけている頭骨のパーツや、胸びれのホネを拾いあつめる。通報者によって、ヒゲの塊もいくつか見つかる。岩のすき間に入っ

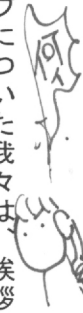


て、食い込んでいるホネもあって、まずは磯での骨拾いの難しさを実感する。通報者の一人は、岩の間のホネを見つけてくれるのがうまく、次々と見つけてくれる。やがて、船を回して、引いてきた小舟に回収した白骨を積んでくれた。見事なホネハンターである。今度どこかの海岸にホネを拾いに行く時、ぜひ連れて行きたいところである。ホネを積まれた小舟は、先に港に帰って、ホネを降ろし、また次のホネを積みに来てくれた。この小舟こそ、我々がクサナ号であった。クサナ号は、この作業の後、廃棄される運命だという。世界最小の捕鯨船クサナ号を守るべく、我々ホネホネ団は立ち上がらねばならない。捨てるならおくれ。

臭魚...は、クジラの別名臭魚(いは)をもじった名刺

●2008年4月23日

そんなわけで、我々は再びこの島に降り立ったのである。思い起こせば、2週間前。腐った肉と、迫り来る上げ潮、大雨、そして何よりその巨体。多くの苦難にさらされ、途中で回収を諦めざるを得なかった。しかし、今こそすべてに決着をつける時がやってきたのである。そもそも、このリターンマッチは、ゴールデンウィーク明け。先の闘いの1ヶ月後に予定していた。しかし、現地協力者からの情報によって、急遽予定を早めたのである。磯を転がる敵は予想外に急速に弱体化しており、すでにバラバラになりつつあるという。



キャンプについて我々は、挨拶もそこそこに船に乗り込み、問題の島へと向かった。今回はすぐに上陸するのではなく、まず海上から敵の様子を確認した。ハシブトガラスとトビの宴の周辺に、敵はすっかり弱体化して横たわっていた。すでに大部分は真っ白になり

バラバラになっていている様子。むしろ散った敵にうまく対処できるかが問題となりそう。

敵情視察を終えた我々は、ついに島に上陸した。尾の部分を中心に下半身はばらけていなかった。で、その処理をする部隊と、散会した敵を回収する部隊にわかれ、次々と処理を進めた。まあ、解体班と骨拾い班である。骨拾い班としては、肋骨や脊椎骨、肩胛骨といった大型のホネは一瞬で拾い終わり、あとは小さいホネとの闘いに終始した。ひそかに狙っていた寛骨は見つからず、手骨も一部を回収できたのみであった。しかし、あれは概ね回収できたと思われる。

あれとは、どら焼き、あるいはお食べ、いや今川焼きに似たあれである。薄くて丸い2枚のホネの間に、軟体部がはさまっているあれである。なぜかわからんが、多くの隊員が、これを見つけたときに、ハンバーグ見つけた！ などと言っていたが、それをいうならハン

バーガーであろう。

回収した脊椎骨と、ほぼ同じ数(少し足りないけど...)回収したので、どら焼きはほぼ全部回収できたんじゃないかと思う。



1. 回収の過程



この回収は、私の自家用車で行きました。軽自動車10時の運転、帰路はほとんどの弱体化した

人の乗車も... (vertical text)

そんなこんなで、ザトウクジラ、

ほぼ1体分のホネを、2回に分けて回収することに成功した。一部欠けたホネがあるのは、この際やむを得ない。それにしても、海のごさには驚いた。あれだけの肉と脂肪の塊が、2週間で綺麗なホネになってしまわうなんて。これではホネが行方不明にならないなら、ホネ取りは海岸に転がしておくに限る。すぐにドンドンホネができあがっていくことだろう。ただ、多くの人は、ホネになる途中の状態を好まないと思われるので、ホネ取りは人がこない海で行なった方がいいだろう。磯よりも浜の方がいいと思う。ホネ取り用のプライベートビーチが欲しいなあ。

(事務局長 和田岳)



さて、バラバラのホネはともかく、問題は臭い肉とホネの塊の方である。とりあえず、でっかい刃物で、皮をはぐ。鉤で引っかけて引っ張りつつ、切っていく。どちらも力がある。鉤がふとはずれて後ろの倒れると、クロフジツボとケガキだらけの岩があつて、大変危険である。一度、鉤はずれて後ろに倒れたのだが、幸い後ろに臭い肉の塊が捨ててあつたので、怪我をしなくて済んだ。代わりに服に臭い汁がついたので、嬉しくはないのだが…。

7m級のクジラとなると、切る方も手頃な足場がなくて大変である。真ん中の方は、クジラの上に乗って切ることになる。妙に柔らかい腐った肉の上で揺れながら切ることになる。ちよつと楽しい。さらに消化管を切ってしまったので、今度はクジラのウンコちゃんだらけになってきた。ご存じだと思いが、クジラのウンコは茶色く、柔らかくて、見るからにウンコちゃんである。それもけっこら軟便。最初は避けていたのだが、だんだん避ける余裕もなくなってきた、みんな多かれ少なかれ、クジラのウンコちゃんに引っ付かれていた。



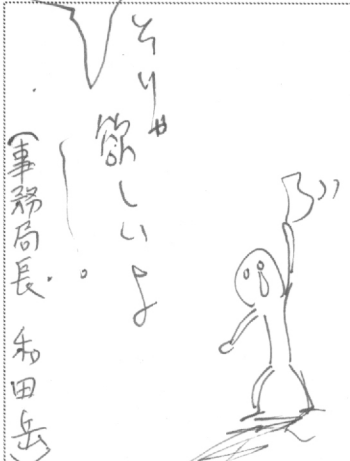
余裕がなくなってきたのには訳がある。ここは潮間帯。作業を始めたのが、ちょうど干潮を過ぎた頃。作業の進行は、満ちてくる潮との闘いである。で、頑張つて闘つたのだが、見事に負けてしまった。干潮から3時間半。ギリギリまで粘つたが、やむなく作業を断念して撤退することになった。頭骨や首の骨、胸びれの骨はかなり回収した。下側以外の皮は剥いた。上側の肉や内臓の多くは取り除いた。が、結局背骨一式は、残しておくことになった。残念。

さて、キャンプに戻って、気付いたことが二つ。5m級のクジラを想定してきたので、今回回収したホネだけで、トラックの荷台がいっぱいになった。7m級のホネ一式は軽トラに乗りきらない。背骨を残してきて正解。戻つてきて、肩胛骨の形や胸びれのホネの大きさを確認して、クジラ船長が一言。これはザトウクジラである。背骨を残してきてしまった…。



正直に言おう。作業していると、きは、てつきりミンククジラだと思つていた。腹側の傷んだ皮しか見えないし、肉はドロドロだし、胸びれと頭はなくなつてるし。この状態でザトウクジラと気付かなくても、きつとさほど恥ずかしくないに違いない。

そして、今日である。今日は朝から雨。未明には大雨だったらしく。ここは陸の孤島である。今は一時的にあがっているが、潮が引く午後にはまた降るらしく、渡つて作業するのは無理らしい。磯のクジラの処理は難しい。軽トラに7m級のホネは積めない。それに、満ち潮に追い立てられながら処理するのは難しい。でもザトウクジラだし。



事務局長 和田岳

自己紹介!

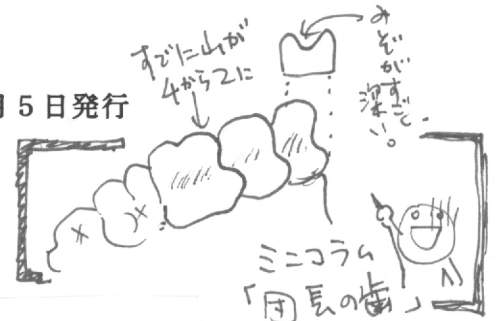
見 恵

ドイツではくせいづくりを
経験しました。技術も忘れないう
参加させてもらいたいと思います。
よろしくおねがいします♡



橋 子

手術室の経験を活かして
これからがんばっていき
たいと思います。
新人ですのでよろしくお
願いします。



ミニコラム
「団長の歯」

歯医者で歯を
もらったのが
虫歯がない歯の
あまりの

磨教ぶりに
ビビリ
ました。

このま
いと
20年後
には
歯骨が
出る
はず...
まー!!

団員 No. 84 (15)

生息地は福岡

遠出は主に

大坂山口



学校生物部の (高一)

骨部化を企てているか
うまくいかず。

主に自宅からで骨取り中。

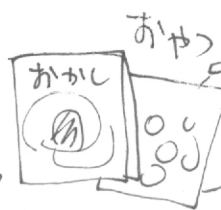
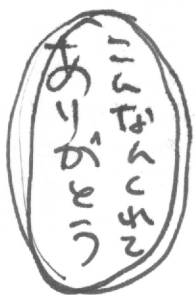
水 子 No. 58

剥製を作りたくて入団
しました。今やすっかり
ホネに魅了されています。

家には
7クモモンガ
(9歳古)がいます。



よろしくお願ひします



リンガー そし...



編集後記
今年の夏は本当に暑かった。おか
げで体調を崩し、あこがれの大型
猫、ピューマを剥けなかったのが悔
しい。
皆様、いつでもいいので自己紹介
や面白い本の紹介、作業中に気付い
たことなど、ホネにまつわるどんな
ことでも結構です。原稿ください。

(通信係 山本)

2009 IN 東京
サイエンスミュージアム
自然史博物館
もびます♪

今日決まったら幸いです。
出ます。
出来立てほやほやの骨格標本をお
披露しましょう。
作業もする(かも?)。

かんさい自然フエスタ
に出るぞ!